

水の 話

FUJI CLEAN NEWS

2019
Autumn

No. 185

【特集】

千曲川流域に広がる

ワイナリー
銘醸造地と、

新たな地域文化

信州にワイン文化を築く千曲川ワインバレー

【フジクリーンレポート】

下水排除基準値を超える透析排水に関して、注意勧告を通達。

適正な処理への対応が急務となっています。

右/アルカンヴィーニュ メルローヴィラージュ2017

中/アルカンヴィーニュ ゆずシードル

左/アルカンヴィーニュ シャルドネ2018

フジクリーン工業株式会社

千曲川流域に広がる 銘醸造地と、 新たな地域文化

信州にワイン文化を築く千曲川ワインバレー

乾いた土地から清水を汲み上げ、美しい果房をつくるブドウ。ワイン用ブドウの生産量日本一を誇る長野県は、ブドウ栽培に適した自然条件を備え、良質なワインづくりを行うワイナリーが数多く存在します。中でも千曲川沿いに広がる「千曲川ワインバレー」には、ワインづくりに情熱をもった人々が次々に集っています。千曲川に沿って生まれた一大ワイン産地の歩みと、この地域で実ったワイン文化を紹介します。

北アルプスと千曲川を望む丘の上に広がるヴィラデスト ガーデンファーム アンド ワイナリー



上田城跡公園に復元された東虎口櫓門

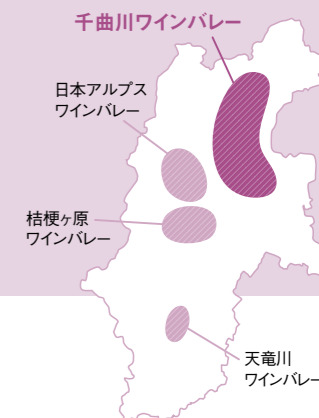


蚕室造りの建物を見ることができる海野宿

DATA

千曲川ワインバレー

長野県にある4つのワインバレーのうち、千曲川沿いの東信州地域に位置し、最大面積を誇るワイン集積地。このうち上田市・小諸市・千曲市・東御市・立科町・青木村・長和町・坂城町の8市町村は、広域ワイン特区に認定されています。



シルクからワインへ。 ワイン用ブドウの栽培に適した千曲川流域。

良質なブドウを育てる千曲川流域の気候

全長367キロメートル、日本一の長さを誇る信濃川は、長野県から新潟県を経て日本海へと流れる一級河川です。このうち、長野県下を流れる214キロメートルが「千曲川」と呼ばれ、北アルプスの眺望と合わせて人々を魅了しています。この千曲川の上流域に位置する東信州は、標高600メートル以上の高原リゾートとして知られるエリアで、雄大な地形が育む農産物や、数多くの史跡や宿場跡などが点在し、観光地としても人気を集めています。また全国平均の約

半分と言われる降雨量で、高い晴天率により日照時間が長く、一日の寒暖差が大きい気候が特徴です。さらに、千曲川によってできた河岸段丘と扇状地は風通しと水はけが良く、日当たりの良い乾燥した土壌をつくりだしています。

こうした自然条件から、近年、千曲川の流域にはブドウ栽培とワイン醸造を行うワイナリーが続々とオープンしています。千曲川流域に形成されたワイナリーの集積地は「千曲川ワインバレー」と呼ばれ、最適な環境で育まれたブドウは、上質なワインとなって多くの人に届けられています。

シルクからワインへ、変化を遂げた千曲川流域

千曲川流域は、かつては養蚕業で栄えた地域です。江戸時代から始まったカイコの飼育と生糸の生産は国家的な殖産事業として推進され、長野県は全国で最も養蚕の盛んな県の一つでした。養蚕を営む農家は、日当たりは良いが水に乏しい里山の斜面を桑畑にして、カイコのエサとなる桑の葉を育てていました。雨が少なく、長い日照時間、風通しが良く乾燥した気候。良い桑が育つ条件の土地は、まさしくブドウ栽培に適した土地でもあったのです。そして、時代の流れと

ともに養蚕業が終焉を迎えると、水の便が悪く標高の高い土地は、利用価値のないものとして放置されていきました。昭和の高度成長期に姿を消し、荒廃した桑畑のあとにワイン用のブドウを植えることで、この地に新しい産業が育ち始めています。桑の葉を食べたカイコが、体内で美しい糸を紡いだように、ブドウは地下の清水を汲み上げ果房をつくり、芳醇なワインへと変わります。シルクからワインへ。産業は変わろうとも、この地が持っている可能性を掘り起こし、豊かな恵みを生み出そうという挑戦は、今も続いています。

世界に認められる「日本ワイン」の挑戦と成長。

日本におけるワインづくりの夜明け

世界中で愛されているワインは、その歴史も古く、紀元前5000年頃にはすでに醸造が始まり、飲まれていたと考えられています。一方、日本におけるワインの歴史は比較的浅く、奈良時代に編纂された『古事記』や『日本書紀』に初めてブドウに関する記述が登場します。室町時代後半頃ようやくスペインやポルトガルからワインが持ち込まれ、キリスト教の布教とともに広がったようです。

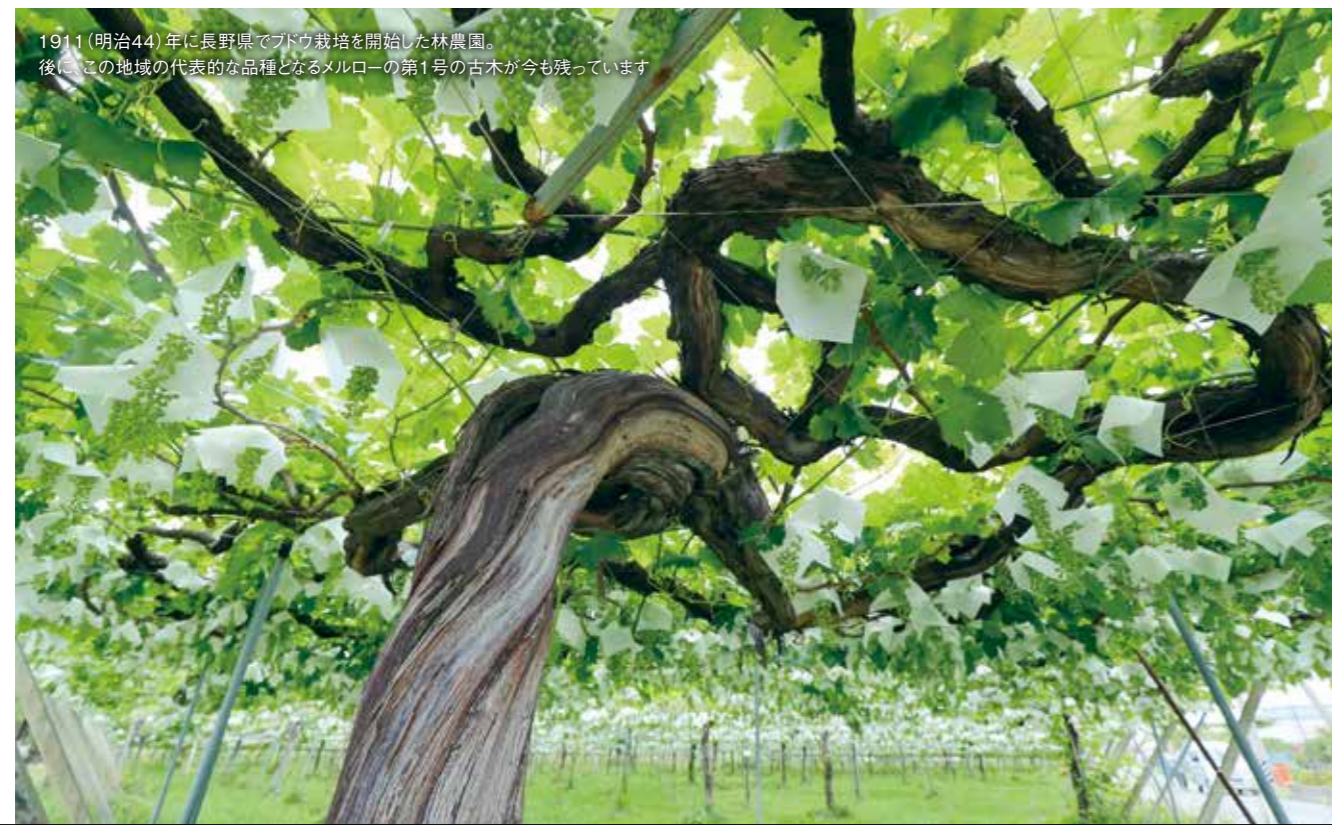
日本国内でワインの醸造が行われるようになったのは、明治時代。当時日本は、長年の鎖国によって他国との交流を制限してきたため、世界の国々から大きな遅れをとっていました。政府は、近代化を進めるために殖産興業を推し進め、山梨県をはじめ各地でブドウ栽培とワイン醸造を奨励しました。この流れを受けて、1870(明治3)年に山梨県甲府市で山田宥教と詫間憲久が「ぶどう酒共同醸造所」を設立し、初めて産業として国産ワインが醸造されました。2人のワインづくりは、わずか2年で終わりを告げますが、これを機に、日本におけるワインづくりへの挑戦の歴史が、幕を開けました。

世界基準を目指し成長を続ける日本ワイン

ようやく動き始めた日本のワインづくりですが、味や保存性、製造方法などの課題や、ワインに馴染みのない国民性などによって、なかなか産業として軌道に乗りませんでした。転

機となったのは1927(昭和2)年、後に「日本ワインの父」と呼ばれる越後の川上善兵衛が日本の風土に適した独自のブドウの品種「マスカット・ベリーA」の開発に成功したことです。日本の気候に適した「マスカット・ベリーA」は、日本のワインづくりを大きく推し進めました。さらに太平洋戦争に突入すると、ワインの醸造過程で生成される酒石酸が潜水艦のレーダー製造に利用できることから、政府が積極的にワインの生産を促したことで、日本のワインづくりは続けられていきました。その後、1970(昭和45)年の大阪万博を契機に食生活の欧米化が進むに従って、日本人のワインの消費量も増加。バブル期に「ボジョレー・ヌーボー」が流行すると、ワインは一気に日本人の身近な存在へと変わっていきました。

そして2012(平成24)年頃から始まった第7次ワインブームで、ついに100%国産ブドウを原料に国内で醸造した「日本ワイン」が注目されます。それまでの原料に輸入果汁を使った「国産ワイン」とは一線を画した高い品質を誇る「日本ワイン」は、国際的なワイン品評会で受賞するなど世界的な評価も上がりました。2016(平成28)年に開催された第42回先進国首脳会議、いわゆる伊勢志摩サミットで各国首脳をもてなしたワインは、12種全てが「日本ワイン」でした。かつて日本の気候と土壌はワイン用のブドウ栽培には向いていないと言われ、評価の低かった日本ワインは、明治時代から現代までの短い年数で、世界基準に迫る飛躍的な進化を遂げたのです。



1911(明治44)年に長野県でブドウ栽培を開始した林農園。後にこの地域の代表的な品種となるメルローの第1号の古木が今も残っています。



塩尻の駅構内では、ワインの銘醸地を感じさせるブドウ棚や看板が並びます



長野におけるワイン醸造の立役者・豊島理喜治の石碑

夢と情熱が集まる千曲川ワインバレー東地区。

NAGANO WINEの台頭と信州ワインバレー

現在日本では、山梨県をはじめ北海道、長野県、山形県など、全国で醸造用ブドウの生産量が増加しています。その中でワイン用ブドウの出荷量全国1位を誇るのが長野県です。長野県におけるブドウ栽培は、1890(明治23)年に塩尻の地で始まりました。塩尻は、かつて江戸と京都を結ぶ中山道の宿場町として栄えた地ですが、1897(明治30)年、後に塩尻ワインの祖と呼ばれる豊島理喜治が、1ヘクタール余りの桔梗ヶ原の土地に26品種3,000本余りのブドウの苗木を植え、ワインづくりの会社を設立したことからワイン醸造が始まりました。

長野県は、北海道のように広大な土地ではありませんが、南北に長い地形から、地域によって標高や地質、温度などの条件が少しずつ異なるため、気象条件に合わせた多彩な品種のブドウ栽培を行うことが可能です。そのため、その土地に適した栽培・醸造の技術を有する個性的なワイナリーが多数誕生しており、「信州ワインバレー」を形成しています。長野県では、長野県産ワインの呼称を、世界を意識して「NAGANO WINE」として打ち出すとともに、2013(平成25)年からは栽培から醸造、販売、消費にわたる振興策「信州ワインバレー構想」を推し進めています。また、独自の長野県原産地呼称管理制度(NAC)の導入や、長野県産のブドウの積極的な使用と産地表記の推進などにより、「NAGANO WINE」のブランド確立を目指しています。

8市町村で構成される千曲川ワインバレー東地区

長野県では、「信州ワインバレー」を4つのバレーに分け、それぞれの地域が集合体として協力し合い、ブランド力の向上と販売増加を目指す取り組みを始めました(P.3参照)。中でも、歴史は浅いものの最も広域を有し、ワインのまちとしてめざましい発展を遂げてきているのが「千曲川ワインバレー」です。さらに長野県で最初のワイン特区に認定された東御市を中心とした千曲川上流域の地域は、小規模ワイナリーの集積を目指す先進的な地域として注目されています。ワイン特区とは、酒税法の定める最低生産量6キロリットルの3分の1の規模で果実酒造免許が取れる特別許可地域の中で、ワイナリー設立のハードルが大きく下がるため、新規参入がしやすくなるというメリットがあります。当初は、東御市を皮切りに、周辺の市町村が個別にワイン特区の認定を受けていましたが、2015(平成27)年に上田市・小諸市・千曲市・東御市・立科町・青木村・長和町・坂城町の8市町村を包括する広域特区として生まれ変わり、「千曲川ワインバレー(東地区)特区」として対象地域を拡大しました。これによって、それまで同じ市町村で採れたブドウしか醸造に使えなかったものが、8市町村内でつくられたブドウが使用できるようになり、調達範囲が広がりました。2016(平成28)年には千曲川ワインバレー特区の連絡協議会も設立し、この地域のワイン産業の推進や連携を図っています。

情熱あるワイングローブを育てる 千曲川ワインアカデミー

千曲川ワインバレーには、土壌やワイン特区のメリットを生かして、小さくても個性豊かで魅力溢れるワイナリーが数多く誕生しています。その先駆けと言えるのが2003(平成15)年に食通で知られるエッセイストの玉村豊男さんが、荒廃した桑畑を開墾して設立した「ヴィラデスト ガーデンファーム アンド ワイナリー」です。その後もワインづくりの夢を叶えたい人や、玉村さんの生き方に共感した人などが次々とワイナリーを開き、ワイン通からも注目される一大ワインエリアをつくりました。

さらに玉村さんは、日本に農業としてのワインづくりを根づかせ、農業をベースにした豊かで持続的なライフスタイルの実現を目指して、2014(平成26)年に日本ワイン農業研究所を設立。翌年、ワイナリー「アルカンヴィーニユ」を建設し、日本で初めての民間ワインアカデミー「千曲川ワインアカデミー」を開講しました。「千曲川ワインアカデミー」は、ブドウ栽培とワイン醸造、およびワイナリーの起業と経営について総合的な知識と実践的な技術を学ぶことのできるワインアカデミーで、長野県内はもちろん全国各地から、ワインづくりに夢と情熱を抱いた受講希望者が殺到しています。卒業生の中にはすでにワイナリーを開設した人もおり、志の高いワイングローブ(栽培・醸造を行う造り手)を輩出することが、この地域に魅力的なワイナリーと高品質のワインが生まれる要因となっています。

ワインの魅力を広げ、 ワイン文化の根づくまへ

ワイン産業には、農業の6次産業化の実現や地方創生の面でも大きな期待が寄せられています。そのため各市町村ではワイン用ブドウ農家を対象とした支援制度や、独自の試験圃場を有したり、新規就農者に助成金を払う自治体もあり、ワイン産業を盛り上げるさまざまな施策がとられています。また近年は、カフェやレストランを併設し、醸造作業の見学や、ブドウの栽培体験ができるワイナリーも増え、観光資産としての魅力も広がっています。ワイナリーを巡る「ワインツーリズム」や、観光列車に乗りながらワインの飲み比べができる「ワイントレイン」、地元産ワインと地元食材を使った料理を楽しむ「ワインフェスタ」の開催など、さまざまな方法でワインを楽しむ機会が増えています。

ヴィラデスト ワイナリーの代表取締役である小西超さんが「ワイナリーが集積することで、農業機械や設備、貯蔵庫等を共有できるといったメリットもありますが、ワイン以外にもレストランやパン屋さん、ソーセージやチーズ職人なども集い、地域としての魅力が増していると感じます」と語られるように、ワインを中心とした産業と文化が、この地で育まれようとしています。手触りのある暮らしを求めて千曲川の流域に集った大勢の人々によって、小さなまちの大きな可能性が実を結ぼうとしています。



軽井沢駅と長野駅間を走る観光列車「ろくもん」では、地元産のワインと食事を楽しむサービスを提供、人気を集めています(写真提供:しなの鉄道株式会社)



2019年4月にオープンした千曲川ワインバレーのワインを体験できる「ワイン&ビアミュージアム」

[取材協力・写真提供・資料提供]

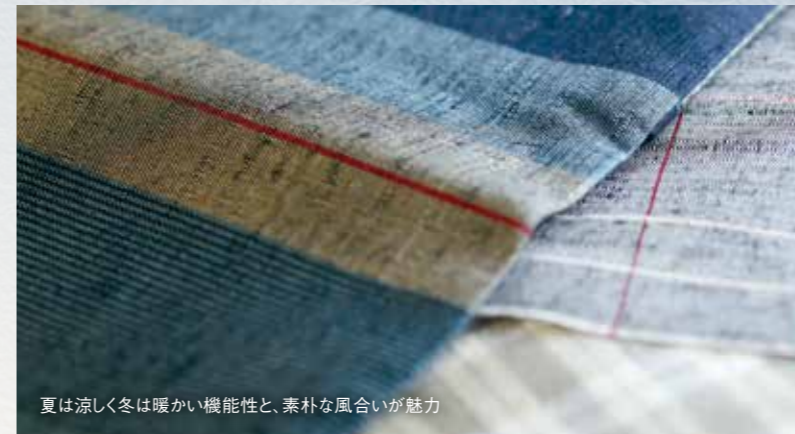
- アルカンヴィーニユ
- ヴィラデスト ガーデンファーム アンド ワイナリー
- しなの鉄道株式会社
- 千曲川ワインバレー特区連絡協議会事務局 (上田市農林部農産物マーケティング推進室)

[参考資料]

- 千曲川ワインバレー 新しい農業への視点(玉村 豊男 著/株式会社 集英社 発行)
- 村の酒屋を復活させる 田沢ワイン村の挑戦(玉村 豊男 著/株式会社 集英社 発行)
- ワインバレーを見渡して(玉村 豊男 著/株式会社 虹有社 発行)
- 日本ワイン誕生考 しらざる明治期ワイン造りの全貌(仲田 道弘 著/山梨日日新聞社 発行)
- ワインの歴史(マルク・ミロン 著/竹田 円 訳/株式会社 原書房 発行)
- 日本ワイン文化の源流-ライン、ホルダーをめざす夢-(上野 晴朗 著/サントリー株式会社 発行)



名将・真田とともに愛され、 信州上田の強さと歴史を伝える「上田紬」



夏は涼しく冬は暖かい機能性と、素朴な風合いが魅力

「上田紬」は、伝統的工芸品に指定されている「信州紬」の一つで、江戸時代前期頃から織られ、手触りの良さと軽く丈夫な生地が特長です。その強さは、関ヶ原の合戦で名を馳せた真田昌幸・幸村父子を引き合いに「真田も強いが上田(紬)も強い」とささやかれる程でした。江戸時代中期には、粋でおしゃれな織物として江戸や上方の多くの人々に愛用され、「大島紬」や「結城紬」と並ぶ日本の三大紬として全国に広まりました。近年は、着物離れが進む中で、和服以外にも洋服生地や小物など、現代のスタイルに合った新しい商品も次々に開発されており、「信州ブランドアワード2018」で「地域ブランド部門賞」を受賞しています。

ここで購入できます!

上田市観光会館

長野県上田市大手2-8-4

TEL 0268-25-4403

休業日 なし(年中無休)

営業時間 9:30~18:00(年末年始は変更有)

Web <http://www.ueda-cb.gr.jp>

上田城跡公園の入口正面に位置する上田市観光会館は、上田紬をはじめ真田グッズや地元の銘菓、地酒など、上田市のお土産や特産品が豊富に揃っています。また、開放的な喫茶スペースやそば処があるので、観光の合間の休憩スポットとしても最適です。観光案内所には、さまざまな資料やパンフレットが揃うだけでなくスタッフも常駐しているので、観光情報を直接聞くことができます。



上田市観光会館1階にある売店



斜面の高低差を利用して建てられたアルカンヴィーニユの建物には、醸造場やショップ、ラウンジ、アカデミーで使用されるワーキングルームなどが揃っています



下水排除基準値を超える透析排水に関して、注意勧告を通達。 適正な処理への対応が急務となっています。

未処理の透析排水による下水道管の腐食被害が問題化

医療機関で使用されるさまざまな薬品などには、下水道排水の規制対象となっている物質を含むものも少なくありません。例えば人工透析装置内部の洗浄には、酢酸や次亜塩素酸ソーダなどの薬品を使用するため、排水が酸性あるいはアルカリ性になり、水素イオン濃度(pH)が排除基準に適さない恐れがあります。酸性に偏った透析排水が下水道に流された結果、汚水ますや管きよを腐食させることが懸念されていました。神戸市など一部の地域では、すでに10年以上前から、透析排水による局所的な腐食を把握し、注意を促していましたが、多くの地域では情報が十分に行き届かず、対策がとられないまま現在に至っています。

しかし近年、札幌市での下水道管腐食による道路の陥没事故をはじめ、東京都でも透析排水による下水道管の損傷被害が発生しました。東京都では、都内透析施設を対象に調査を実施したところ、十分な排水処理がされていない施設が多数存在することが判明しました。この事態を重く受け止め、国土交通省は全国の下水道関係者に対して情報共有の通達文書を、厚生労働省は透析医療機関などに対し下水排除基準の徹底遵守を求める通達文書を、それぞれ発行しました。



通常のます



酸性排水で腐食したます

画像は東京都下水道局ホームページより

2019年、関連機関が透析排水の適正処理を勧告

この通達文書を受け、関連機関ではさまざまな対応策に乗り出しています。2019年1月に日本透析医学会・日本透析医学会・日本臨床工学技士会は、3団体によるワーキンググループを設置。4月には透析関連排水に関する勧告を発表したのはじめ、3団体に関連する学会での特別講演による啓蒙活動の実施、透析排水管理のマニュアル作成などの活動を、順次進めることになっています。

さらに各地の下水道局でも、透析排水の適正な処理についての講演会の実施やパンフレットの配布などの啓蒙活動に加え、病院やクリニックに対してpH値の抜き打ち検査を実施し、下水排除基準を遵守できていない施設に対して適宜指導を行うケースも出ています。中には、下水排除基準を遵守せずに下水道施設に損傷が発生した場合、行政処分や損傷負担金について言及する地域もあるなど、早急な対応が求められています。

【透析関連排水に関する勧告】

1. 中和処理装置(システム)の設置

法および条例で規定されている「水素イオン濃度(例:東京都23区の規制ではpH:5を超え9未満)」を満足すべく中和処理装置(システム)の設置を原則とする。なお、使用する装置(システム)については、届出等各自治体関連部署の指示に従うものとする。

2. 適正な消毒剤・洗浄剤の使用

1.を達成すべく、適正な消毒剤・洗浄剤を使用する。具体的にはメーカー指定のものを所定の方法で使用する。

3. 適正な排水管理

基準を満たす排水が流れているか、排水モニタリング(排水pH測定等)を通じて適正に排水管理する必要がある。

日本透析医学会学術集会・総会の企業ブースにフジクリーンが出展。大きな反響をいただきました

このように、2019年に入り透析排水の適切な管理および排水処理対策が急速に求められるようになり、医療団体も徐々に対策について検討を始めています。こうした現状を受け、6月28日(金)~30日(日)に神奈川県のパシフィコ横浜で開催された『第64回日本透析医学会学術集会・総会』でも、緊急企画として透析液排水の適正な処理についての講演が行われ、高い関心を集めました。同時にフジクリーンは、同イベントでの企業展示ブースに初めて出展し、全国の病院、クリニック、透析商社、メーカーなどに向けてpH調整ユニット(FJPII型)と除害ユニット(FJR型)などを紹介しました。併せて、最適な設置プランや

アフターメンテナンスなどの提案を行い、大きな反響をいただきました。特に設置スペースについての課題が多く寄せられ、フジクリーンでは、今後さらに、こうしたニーズにお応えできる製品の改善・開発につなげていきたいと考えています。



企業展示に出展したフジクリーンのブース

2019年秋頃
コンパクト
タイプが
発売予定!

適正な透析廃水処理を、フジクリーンの製品がお手伝いします。

■ pH調整ユニット [処理能力:~80床]

中和した処理水のpH値を常時モニターする『制御+監視タイプ(SW)』、処理水のpH値を記録する『制御+記録タイプ(SR)』をご用意しています。

【処理性能】

pH
5を超え9未満

● FJPII-M型 連続式中和処理方式 (地下埋設型) ● FJPII-S型 連続式中和処理方式 (地上設置型)



■ 除害ユニット [処理能力:10~80床]

担体流動方式の採用で、微生物を担体に付着・増殖させることにより生物量を保持します。微生物の代謝能力により有機物の分解を行います。

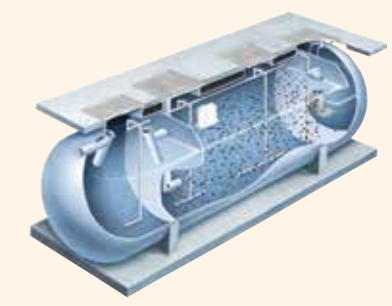
【処理性能】

pH
5を超え9未満

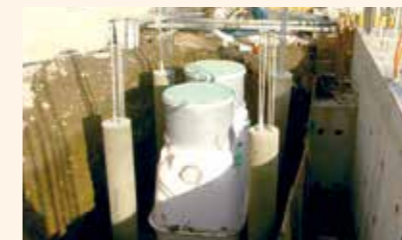
BOD
600mg/L未満

SS
600mg/L未満

● FJR型 (中和緩衝槽 + 担体流動方式)



【設置事例】



新製品

中型浄化槽CV型に、14~30人槽がラインナップ!! 業界No.1の超浅型を実現しました!

[14~30人槽]

5~50人の全人槽帯が 窒素・COD除去機能搭載に!

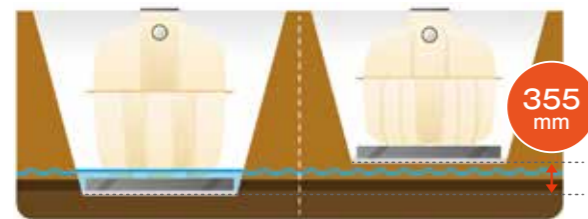
2019年9月に、全高超浅型の中型浄化槽CV型の14~30人槽が発売されました。3月に発売された35~50人槽に続いてのラインナップで、これによりフジクリーンの5~50人の全人槽帯で、窒素・CODの除去機能を有することとなりました。



中型浄化槽 CV型イメージ

1 業界No.1、全高超浅型コンパクトタイプ!

CV型は、14~21人槽で全高1,660mm、25~30人槽で全高1,860mmの業界No.1クラスの超浅型を実現しました。これにより、掘削土量の減少に加え、掘削時の湧水発生や岩盤接触時のリスク軽減など、施工性も向上しました。



2 窒素除去・COD除去機能を搭載

維持管理のしやすさに定評がある接触ろ床方式を採用し、安定して優れた水質を得られます。さらに、従来機種(CE25~30人槽)の処理性能に窒素除去、COD除去も加えました。

■ 放流水質

BOD	T-N	SS	COD
20	20	15	30

mg/L以下:日間平均値
(一財)日本建築センターによる性能評価値

3 2019年度環境配慮型浄化槽に適合

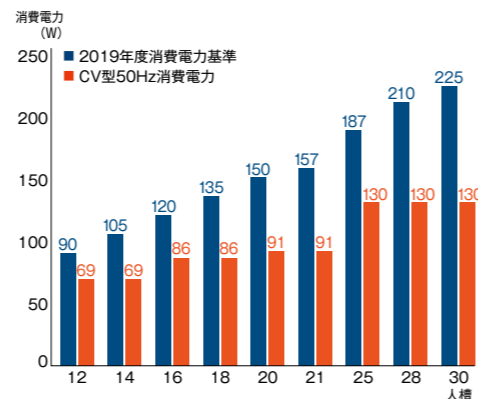
CV型の14~21人槽では、従来機種CA型に対し消費電力の約50%削減を実現しました。これによって、従来のCA型では、一部の仕様でのみ対応していた2019年度環境配慮型浄化槽の消費電力基準に、CV型では全人槽で適合しています。

■ 仕様表

型式(型)	CV-14(12)	CV-18(16)	CV-21(20)	CV-25	CV-30(28)
処理方式	接触ろ床方式				
処理対象人員(人)	14(12)	18(16)	21(20)	25	30(28)
汚水量(m ³ /日)	2.8(2.4)	3.6(3.2)	4.2(4.0)	5.0	6.0(5.6)
最大横幅(mm)	1,680	1,750		2,100	
最大縦幅(mm)	2,650	3,380	3,880	3,370	3,940
全高(mm)	1,660			1,860	
流入管底(mm)	400			450	
放流管底(mm)	500			550	
マンホール(mm)	φ450×3	φ450×2、φ600×1		φ450×3	φ450×2、φ600×1
送気口	φ13	φ20			
対応プロワ	EcoMac100	EcoMac120	EcoMac150	EcoMac200	
消費電力(50/60Hz)	69/69W	86/86W	91/100W	130/150W	
環境配慮型浄化槽	○	○	○	○	○

()内は転用人数
※各部寸法は外寸法で示しています。 ※全高にはマンホールの厚み30mmは含まれておりません。

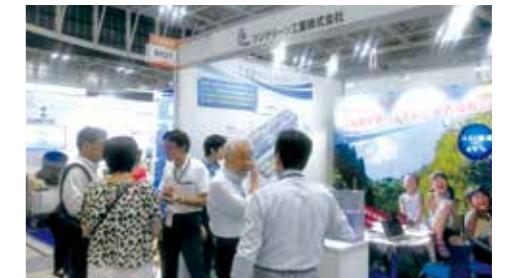
■ 2019年度消費電力基準とCV型消費電力の比較



EVENT

『下水道展 '19横浜』に出展しました。 ブースやプレゼンテーションへ、大勢の方にご来場いただきました。

2019年8月6日から9日までの4日間、神奈川県のパシフィコ横浜で、『下水道展 '19横浜』が開催されました。下水道処理関連企業など346社が出展し、4日間で46,659人が来場しました。フジクリーンのブースでは、「工場製作型極小規模処理施設」を紹介。出展者プレゼンテーションでも、「下水道クイックプロジェクト 工場製作型極小規模処理施設『FGU型』」について紹介し、多くの方に聴講いただきました。



NEWS

「健康宣言チャレンジ事業所」認定を受けました。

このたびフジクリーン工業は、積極的に社員の健康づくりに取り組むため、「健康宣言」をし、「健康宣言チャレンジ事業所」として全国健康保険協会より認定を受けました。これは、社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所を認定するものです。

フジクリーンでは、社員の心身の健康保持・増進が、活力向上につながり、さらに企業活動の活性化、お客様へのより良い製品とサービスの提供となることを目指しています。フジクリーンは健康宣言を通して、社員の健康保持・増進の支援、および職場環境の整備に取り組んでまいります。

健康宣言の
主な取り組み
項目

1. 社員の健康課題の把握と必要な対策の検討をします。
2. 社員の心身の健康づくりに取り組みます。
3. 社員の健康管理を経営的な視点で考え、その実践に向けて環境を整えます。



認定証

組織体制
の変更

大分営業所と盛岡営業所が移転いたしました。

2つの営業所が、事務所を移転いたしました。新住所は以下になります。

大分営業所 新事務所開所日 2019年7月16日

〒870-0156 大分県大分市高城新町6-21
アクシス高城2階D号
TEL.097-558-5135 FAX.097-558-5202
TEL/FAXとも変更ありません。

盛岡営業所 新事務所開所日 2019年9月17日

〒020-0034 岩手県盛岡市盛岡駅前通7-12
はちや盛岡駅前ビル3階
TEL.019-604-2527 FAX.019-604-2528
TEL/FAXとも変更ありません。

もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

(名古屋市守山区)
守山リス研究会



代表 / 北山 克己さん

“生きた森”を次の世代に継承するために、 多様な動植物が共生できる環境を。



稀少植物が育つポイントでは、
気温や湿度などのデータを収集

東谷山に棲息するニホンリス



守山リス研究会は、名古屋市守山区と瀬戸市の境にある東谷山の森・ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場・愛知県森林公園を中心に、ニホンリスやムササビなどの野生動物の調査と保全活動に取り組んでいます。設立のきっかけは約30年前。当時、代表の北山さんは、ホームステイで受け入れていた世界各国の家族から「森には何の動物がいますか」という質問を頻繁に受け、次第に「日本の森は野生動物が棲息できない死んだ森なのか?」と疑問に思い始め、調査をすることにしました。1990(平成2)年にこの指とまれで集まった7名と会を設立すると、専門家の先生にも手弁当で協力を仰ぎ、ニホンリス・ムササビの棲息を確認。その後は、定期的なモニタリングや許可捕獲による生態調査とともに、リスのエサとなるアカマツやオニグルミの許可植樹を続けるなど、不足するエサのみを給餌する「域内繁殖法」で保全活動も行ってきました。さらに、活動を進めるにつれてカモシカやイノシシ、ニホンテン、ニホンイタチ・ニホンキツネ等棲息も確認し、それらの生態や共生環境などについても調べています。他にも、稀少植物^{※1}の調査・保全や樹木の成長に必要な湧水の測定、外来動植物^{※2}の調査駆除など、この森で昔から共生してきた動物と植物が高次元でバランス良く棲息できる環境づくりを目指しています。

近年は、名古屋市の「なごや環境大学共育講座」(10年以上)をはじめ、小学校の総合学習、トワイライトスクール、高等学校との年間提携活動、大学の卒論支援・インターン受け入れ(5年以上)などを通して環境教育にも積極的に取り組んでいます。毎月第3、第4土曜日は一般公開日として広く参加者を受け入れており、体験・学習と調査を結びつけたプログラムを実施しています。具体的には、捕獲したリスの体重や性別を調べたり、放獣後に観察した特徴を10項目以上発表してもらったり、エサとなる木々の状態を観察しながら自然の持つ知恵や力を一緒に考察し、観察力や発見力を育てています。2018(平成30)年からは、共育講座の一環としてニホンミツバチの飼育と調査・野生化保全も2年間の飼育者養成学校の形式でスタートし、さらなる展開が期待されています。

設立から約30年が経ち、日本全国に約100名の会員を抱え、専門的な知識や技術を持ったスタッフも増えました。たくさんの野生動物と植物が自活できる豊かな環境をつくり、生きた森を次世代に引き継ぐために、今後も森との対話を続けていきます。

※1 ササユリ・スズカカンアオイ・ムヨウランなど

※2 オオキンケイギク・ムネアカハラビロカマキリ・

タイワンタケクマバチ・アライグマ・ハクビシン・ヌートリア



美しい水を守る

フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	茨城営業所 (029)839-2271	岐阜営業所 (058)274-1011	佐賀営業所 (0952)31-9151
東北支店 (022)212-3339	宇都宮営業所 (028)625-4650	静岡営業所 (054)286-4145	熊本営業所 (096)388-3571
東京支店 (03)3288-4511	群馬営業所 (027)327-5611	四日市営業所 (059)350-0788	大分営業所 (097)558-5135
名古屋支店 (052)733-0250	埼玉営業所 (048)620-1424	和歌山営業所 (073)422-3634	宮崎営業所 (0985)32-3064
大阪支店 (06)6396-6166	千葉営業所 (043)206-5171	広島営業所 (082)843-3315	鹿児島営業所 (099)257-3501
福岡支店 (092)441-0222	新潟営業所 (025)271-8668	高松営業所 (087)869-8680	沖縄営業所 (098)862-9533
盛岡営業所 (019)604-2527	山梨営業所 (055)275-9300	松山営業所 (089)967-6123	
郡山営業所 (024)944-7780	松本営業所 (0263)27-2080	高知営業所 (088)803-1520	



発行 2019年10月1日

フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室